



## 巻頭言 消化器内科・伊藤 いとう たかよし 敬義

### ◆ 新興感染症を前にして

2020年の東京オリンピックの年は図らずも新型コロナウイルス(COVID-19)との戦いの年となりました。年が明けてから中国武漢から未知の致死的な呼吸器疾患を引き起こすコロナウイルス肺炎の流行が連日報道され、WHOからもパンデミック(世界的な流行)と宣言されました。新興ウイルス感染は抗菌薬が無効で、抗原や抗体を検出する診断キットも利用が制限されるため、標準感染予防策と呼吸管理などの対症療法が中心となります。ただこれまでも人類は天然痘ウイルス、ポリオなどのウイルスをワクチン開発によって根絶させ、約30年前の新興感染症だったHIVも複数の抗ウイルス薬開発によって治療法が確立しています。



消化器領域では肝臓疾患の半数はウイルス感染が原因です。肝硬変、肝癌の原因となるHBVは抗原抗体系での診断やワクチンが確立し、WHOが1992年に「世界中すべての子供にHBVワクチン接種を」と呼びかけ、日本でも対応は遅れましたが2016年から定期接種が始まっています。また現在のHBV持続感染者にはHIVの逆転写酵素阻害剤が有効であることから、ETV、TAFといった抗HIV薬として開発された薬剤による治療が行われています。この治療薬、またワクチン政策によってHBV感染に起因する肝硬変、肝癌は減少すると予想されます。

一方で肝癌の原因の半数を占めるHCVは1989年にカイロン社が遺伝子クローニングという当時初の技術で発見しました。HCVは血液中のウイルス量が非常に少なく、ウイルスの検出は現在のCOVID-19同様にPCR法に頼っていました。PCR法はノーベル賞を受賞した核酸増幅法で、微量なDNA、RNAを検出可能にします。一方でHCVやCOVID-19のようなRNAウイルスは体液に含まれるRNA分解酵素の存在や逆転写酵素を用いて一度RNAからDNAに合成するステップが必要なことから検査法が少し煩雑です。検査に時間がかかることと検体が少なく、サンプル調製の過程でウイルスRNAをロスして偽陰性になることがあります。現在のリアルタイムPCR法は検査工程を簡略化し、また内部コントロールを用いて、ウイルス由来の核酸増幅状態をモニターし、定性と定量を同時に行います。HCVの完全培養系はHCV発見から16年後に国立感染症研究所の現所長の脇田先生が開発に成功し、その後多くの抗ウイルス薬(DAA製剤)が開発され、培養系で評価されました。現在は97%の寛解率でウイルス排除が可能です。DAAは非代償性肝硬変の患者にも使用可能で、当センターでも多くのHCV患者を治療しています。

現代のウイルス学、遺伝子工学分野は新興ウイルスの発見によって日進月歩してきており、COVID-19も簡便な診断系、治療薬の開発、また有効な既存抗ウイルス薬の治験などが早急に進むことと期待しています。



### 第72号のトピックス

- 巻頭言 (消化器内科)
- NST活動について (栄養科)
- 防災訓練実施報告 (管理課)
- 「ご意見・ご要望」についての回答
- 編集後記

## NST 活動について 栄養科・相原 あいはら えりか 絵梨花

NSTは「Nutrition Support Team（栄養サポートチーム）」の略で、多職種が共同して患者さんの栄養管理をサポートするチームです。病院では患者さんの年齢や体格、病態に応じて食事を提供していますが、治療の影響で食欲不振が生じたり、病気や手術によって口から食事が摂れなくなったりすることがあります。必要な栄養量が摂取できずに栄養状態が悪化すると治療の効果が得られにくだけでなく、感染症などの様々な合併症を引き起こし、入院日数の延長に繋がると言われています。

当院のNSTはリハビリテーション科医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、管理栄養士の5職種で構成しており、2019年9月より活動を開始しました。メンバーは日本静脈経腸栄養学会が定める栄養管理に関する所要の研修を受けており、NST専門療法士という認定資格を持つスタッフもいます。主治医や病棟看護師から依頼を受けてNSTが介入しますが、対象となるのは食事摂取量が不十分な患者さんだけでなく、嚥下機能障害がある患者さんや経管栄養・静脈栄養で栄養管理を行っている患者さんなど様々です。週1回のカンファレンスで、患者さんの栄養評価を行い、それぞれの体格や病態などを考慮しながら適切な栄養量を算出し、食形態や栄養投与方法を検討しています。また、チームで患者さんのベッドサイドに伺い、嚥下機能の評価や口腔内の観察とケア、食事摂取状況の聴取を行いながら、必要に応じて食事内容の調整を行っています。経管栄養や静脈栄養によって生じる下痢や高血糖などの合併症対策もNSTの業務のひとつです。当院にはNSTの他にも褥瘡ケアチームや口腔ケアチームなどがあり、主治医や病棟看護師だけではなく、これらのチームとも連携を図りながら活動を行っています。

NSTの活動以外にも院内スタッフを対象にNST勉強会を開催しており、各部署の栄養管理に関する報告を行ったり、様々な疾患に応じた栄養管理の方法について学んだりしています。今後も病院全体で適切な栄養管理が行えるよう取り組んでいくとともに、NSTのそれぞれの職種がより高い専門性を発揮し、患者さんの栄養状態の改善に貢献できるよう努めてまいります。



NST 集合写真

後列左から伊藤薬剤師、越塚薬剤師、相原管理栄養士、中川原師長  
前列左から杉山医師、依田医師、磨田歯科医師



令和2年3月5日（木）、令和元年度第2回防災訓練を実施しました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行中のため、感染対策に細心の注意を払い、本部訓練のみの縮小開催にしました。

今回の訓練では東京湾北部地震（M7.3（暫定値）/最大震度7）が発生したと想定し、災害対策本部を立ち上げ情報収集活動を行いました。

東京都災害拠点病院に指定されている当院は、大規模災害発生時に近隣の医療機関の被災状況や診療継続の可否といった情報を収集するとともに、自院の被災状況を都道府県・消防・医療機関などの院外各機関に報告する必要があります。そのためには、院内の被災状況を迅速に収集・集計しなければなりません。そこで、情報体制の拡充を目標として、院内各部署へ被害状況の報告を要請し、報告された情報を集計、院外機関への模擬報告を実施しました。

また、並行して机上でのトリアージ活動を実施し、受入患者数などを本部へ報告する訓練を行いました（「トリアージ」：傷病者の重症度により治療の優先順位を決めること）。本部・トリアージ部門間の情報のやり取りを通して、災害時に取るべき基本的な行動手順を確認することが出来ました。

本訓練では、本部要員に事前に被害状況を知らせないブラインド形式で実施したため、報告された被害や人員不足などの情報に対しどのような順序でどのような対応を取るべきか担当者が混乱する場面もありました。今回見つかった多くの課題解決に向けて、職員の知識向上やマニュアルの整備など災害時の体制強化を進めてまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック開幕を控え、会場や選手村の近傍に位置する当院は充実した医療を提供するという大きな役割を担うことになります。

江東区・豊洲地区に所在する当院は、地域の災害医療の拠点として今後も防災訓練をはじめとする様々な災害対策を実施してまいります。



机上でのトリアージ活動

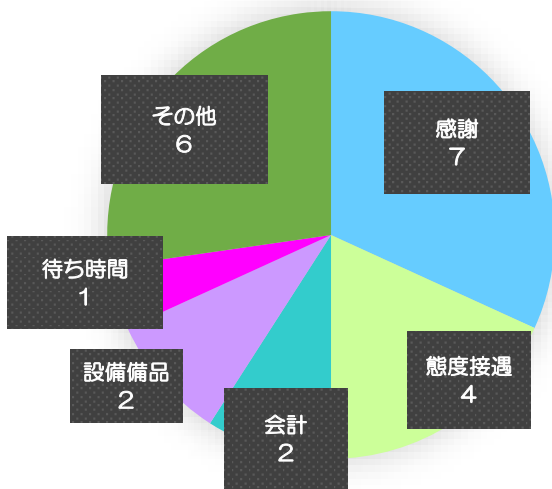


災害対策本部訓練の様子

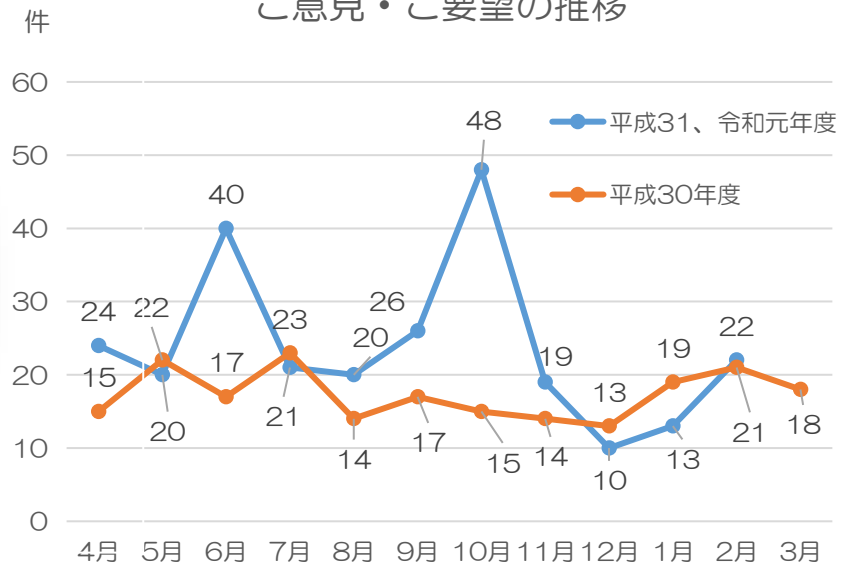
## 「ご意見・ご要望」についての回答

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>消毒剤を2階のあちこちにおいてほしい。</p>	<p>この度は貴重なご意見ありがとうございます。自動手指消毒器については、1階に6か所、2階に2か所設置しております。来院の際は、1階正面入口の手指消毒器をご利用ください。また、2階エリアには、エスカレーター乗り場付近と採血室の隣に設置しておりますので、よろしければご利用ください。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。 回答部署：クオリティマネジメント課</p>
感謝	回答
<p>初めて貴院に入院しました。若い医師が皆、最新医療の先端を担っているようで、全く不安なく過ごせました。看護師他スタッフの皆様も親切で、心の支えになりました。お世話になりました。</p>	<p>この度は、過分なお言葉を賜りまして心より感謝申し上げます。行き届かない部分も多かったと存じますが、このようなお心遣いをいただきましたことがこれからの大きな励みになります。私たちも回復に励まれている姿を通じて、多くのことを学ばせていただきました。これからも医師、看護師、医療スタッフ一丸となり心の支えになるような対応を心がけてまいります。 回答部署：看護部</p>

令和2年2月分  
ご意見・要望の内訳  
総件数22件



ご意見・ご要望の推移



### 編集後記 呼吸器・アレルギー内科 おかだ たけのり 岡田 壮令

今シーズンは暖冬だと言っても冬はやはり寒いわけで、本来であれば、三寒四温で徐々に春めいてくるのが楽しみな時期なはずでした。しかし、今年はこの時期に、人類がかつて経験したことのない新たな感染症に直面する事態となり、連日メディアをにぎわせているとおり、全世界的なパニックに陥っています。世界的に経済も停滞する中、疑心暗鬼になり他の者を敵視するような風潮すら出ていて、やりきれない思いがします。しかし、某国の高校の校長先生の、このようなときだからこそ冷静になって、社会を守るためには何をしたら良いのか、各々がよく考えて行動するべきとの言葉が、まさにどのようにすべきかを表しているのだと思います。次年度もまた、江東豊洲病院が地域で貢献できますよう、我々も他人のこともきちんと配慮しつつ、自らも守るという姿勢は崩さずにこの難局を乗り切れたらと思っています。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital